

未来に向けて無駄な努力などない



校長 宮澤 雅子

6月は体育祭、教育実習、講話会など、学校の内外に向けた様々な教育活動が、とても盛んな月となりました。多忙な毎日を過ごしていましたが、こうした教育活動は、「生きる力」を育てる大事な源です。本校メイン・アリーナで6月24日に行われた㈱キリン・ホールディングス、グローバル人事室の佐藤様の講演は「企業の海外展開の実情・その必要とされる資質、能力・女性の役割について」がテーマでした。大学を卒業して社会人として生きる中で、机上のアドバイスでは無く、実態からくる現場の生の声は、真剣に聞いている人達にとって多くの学びがあったはずです。企業で最も求められる能力は「積極性、何事も最後まで諦めずに頑張れる力、人との輪が作れるコミュニケーション能力」。その力は日々の授業、行事、委員会、クラブ活動によって育まれるものであり、どの教育活動も一生懸命努力を注いだものに無駄はなく、全て余すところなく、大学卒業後に生かされてくる能力だとはつきりわかったと思います。

グローバル力とは総合力であり、決して外国語に勝れていることや海外の最前線にいることでもない、真に「生きる力」そのものを指していることが再確認できた講演会でした。

その前日の23日に行われた体育祭は、父母後援会、けやき会はじめ多くのお客様に見守られながら無事に終了することができました。今年度は念願の代々木体育館という素晴らしい施設で実施することができ、より感動的な体育祭が実現できました。どの種目も見応えがあり、とりわけ大妻中野の伝統ある各学年のダンスはマスゲームの美しさや技術の見事さは勿論のこと、1年ごとの成長ぶりが手に取るように伝わり、そのことに大きな喜びを感じました。そして今年も圧巻は6年間の集大成である高校3年生の詩吟です。最上級生としての自信と誇りと責任が一つ一つの動きに漲り、会場の空気を引き締め、見ている人の目を捉えて離しませんでした。そして、毎年感じることは、体育祭幹部や委員を初め、全ての競技を支えている、招集誘導、道具、審判、会場などの各係の人達の真剣な働きがあってこそ成り立つものだということです。事故が無く順調に競技出来るよう必死にフロアを走り回っている姿に心打たれました。この体育祭のためにお力添えいただきました多くの方々に御礼申し上げます。次は、文化祭の成功に向け走り出しています。今度は、どんな妻中らしい「一祭入魂」が創り上げられるのか、今から楽しみです。

